

## 新庁舎建設市民懇談会～新庁舎について副市長と語ろう～ 概要報告

### 1. 実施形式

市担当から新庁舎建設の検討状況について概要を説明し、参加者と内藤副市長との意見交換を行った。

### 2. 開催日程・参加者数等（合計参加者 78 人）

日時	会場	参加者
5月10日（金）午前10時	本多公民館	13人
5月13日（月）午後6時30分	リオンホール	14人
5月14日（火）午後2時	並木公民館	5人
5月15日（水）午後2時	恋ヶ窪公民館	11人
5月21日（火）午前10時	光公民館	6人
5月21日（火）午後2時	もとまち公民館	6人
6月2日（日）午前10時	市役所書庫棟会議室	23人

### 3. 意見交換の概要（主なもの）

#### ○本多公民館

【参加者】新庁舎建設の費用について、市の財政としてどのように対応していくのか。

【副市長】新庁舎の施設要件、機能整理について、市民の意見として、やはり防災の視点が一番強く寄せられている。直下型地震等を想定し堅固な庁舎が必要だろうと思っている。

財政の規模については、重要であり、現在約40億円の基金を積んでいるが、新庁舎建設の担当と同時に財政の担当もしているので、財政に大きな負担がかかる状況があってはいけないと思っている。そのためには財政規律も考えなければいけない。

【参加者】国分寺駅北口再開発のツインタワーに新庁舎を入れる可能性はなかったのか。

【副市長】国分寺駅北口の再開発ビルのツインタワーは、基本的には権利者の代替施設（権利変換方式）ということになるため、そこに庁舎を入れるということになると、その面積をどういうふうに振り分けるのかということが課題になり、建設コストを含め、権利者調整等様々な問題が発生することから現在の状況になった。

【参加者】 行政としての建設候補地をはっきり決めるべきである。

【副市長】 仮に新庁舎を移転する場合には、議会により特別多数議決として3分の2以上の賛成が必要となる。

現庁舎用地に庁舎を造ろうとした当時の議員の苦勞からすれば、初代の村役場が内藤橋付近、次に現在の農協の場所に移って、現在3カ所目ということからすれば、合理的に造り替えてきた様子が伺える。

【参加者】 新庁舎の建設候補地は泉町所有地が良いので、跡地には老朽化した施設や市民が求める施設の整備を考えてもらいたい。

【副市長】 泉町所有地での建設の場合、現庁舎用地は跡地となり、公共施設を更新する種地になるという要素があり、例えば老朽化した恋ヶ窪公民館、福祉センターという2つの施設も含め、集約して再編するという方法も考えられる。併せて民間活力の導入を視野に入れ、恋ヶ窪のまちづくりも考えていかなければいけないと思っている。このことから一番効率的なのは何なのかというところが重要だと考えている。

【参加者】 新庁舎の場所というよりも、まちづくりをどうしていくかを考えるべきである。

【副市長】 現在、西国分寺駅周辺では北口の協議会が立ち上がり、基本構想が出来上がった。

東口では、交通広場で改札を開設したいというのが悲願であるので、それをどうにかして進めるため、西国分寺駅東口周辺エリアでも協議会を立ち上げるよう考えている。

同様に恋ヶ窪駅周辺でも市民と懇談会を行い、どのような街にしていくのかという話し合いを始めているところ。商店街の活性化、活気ある街をどのように作るのか、街づくりのあり方をみなさんと一緒に進めたいと考えている。

【参加者】 国分寺駅から泉町所有地までの道路が谷になっているので、その改善も考えてもらいたい。

【副市長】 多喜窪通りは都市計画道路になっているので、国分寺駅までの整備による歩行環境の向上に向け、事業推進を早めてもらえるよう東京都との話が必要と考えている。

【参加者】 新庁舎建設にあたり、他の公共施設も含めて今後どうしていくのか。

【副市長】 公共施設の再配置は、庁舎建設だけの問題ではない。老朽化した公共施設をどうやって再編成していくのか、例えばひかりプラザの教育委員会が移転し、そのスペースが空けば、新たな使い方が模索でき、市民の方が何をしたいのかというのを踏まえた施設にできるようになる。老朽化した施設に対する意見を踏まえながら集約

することで、新たな施設を作るための種地が見えてくる。そのような意味からも、庁舎だけということだけでなく、まちづくりや市民活動などをどのように支援していけるかというところに繋がっていくのだと思う。

【参加者】都市計画マスタープランを実現するためのまちづくりについて市民と議論していくべきである。

【副市長】少子高齢化を踏まえたうえで、どういった施設、機能を持たせていくのかという議論が必要になると思う。ユニバーサルデザインのまちづくりというものが、これから主軸になってくると思う。

【参加者】新庁舎建設と併せたまちづくりの議論に市民への参加を求めていくべきだが、これまでの市民参加の参加率が低く関心が低いのではないか。

【副市長】新聞で川崎市の例が出ていたが、市民参加で庁舎を建て替えることへの市民の関心度の低さを市長が嘆かれているという記事があった。また鎌倉市等でも庁舎の移転を計画しているが、やはり市民参加の機会を設定しても、参加状況がよくないという情報もある。当市では新しい試みとして、このように副市長との懇談会という形式を考えた。多くの市民に参加をいただき意見交換をして、しっかりしたものを積み上げていく必要があるだろうと思っている。

【参加者】新庁舎の必要性について説明してもらいたい。

【副市長】国分寺市は年2千人くらいずつ人口が増えている。転入手続きをはじめ、人によってはひかりプラザ、いずみプラザと移動しなければならず、分散庁舎が利用者に負担をかけている状況にある。また、職員の会議等では移動時間がかかり効率的な運営となっていない。

何よりも災害時に、熊本地震のような大震災で、庁舎が倒壊することを防ぎ、みなさんの個人情報を守る等、総合的に考えていくと新庁舎は必要だろうと思う。また、移転した場合の跡地は老朽化した施設の再整備の種地になって、効果的に公共施設の再編が進められるだろうと思っている。

【参加者】国分寺市の今後の人口についてどう考えているのか。

【副市長】人口ビジョンについては、今年、人口の推計を改めて考えているが、日本全体をみればマイナス傾向になり、国分寺市でもどこでマイナスに変わっていくのかというのを探っている。

【参加者】基本構想への市民の理解が足りていないと思うので、説明をしたうえで市民の意見を吸い上げることを考えてもらいたい。

【副市長】丁寧に意見を収集し、それを踏まえて進めるというのが大前提だと思っている。

職員だけが使う施設ではないということが理解され、公共施設の再編も含め市民の活動の場がより良くなる方向になっていく、そういう意見の収集が出来るようなことも含めて、手法と問いかけを考えていきたい。

## ○リオンホール

【参加者】新庁舎は防災の拠点となるような場所、環境、構造が必要である。

【副市長】防災の視点というのは、新しい庁舎を造るうえでは不可欠で最大の要素だと思っている。直下型地震も含めた災害の発生はいつ起きても不思議ではないことを考えれば、市民の拠りどころとして、最大の機能を発揮する庁舎が脆弱な状態でいいのかと言えば否だと思っている。

防災面の指摘は、十二分に考えたうえで庁舎の建設に進むべきだと思っている。そのうえで、一番大切なことは市民の生命と財産を守るための拠点の施設が、職員の生命を守る以上に、市民の情報が蓄積されているということであり、いざという時にその機能が果たせない恐怖というのがある。危機管理官として防災を担当し、併せて財政の担当でもあるので、財政についても十二分に考慮しバランスを考え、市民の負託に答えられる庁舎はどうあるべきなのかということを見ながら進めていきたいと考えている。

市長も庁舎建設を進めると判断した時から、堅牢な災害に耐え得る庁舎が必要で、華美なものはいらないと言っており、しっかりその部分を踏まえ進めていく。更に、市民の意見等を取り入れていくのが我々の仕事だろうと思っている。

【参加者】金額的な問題はあると思うが、東京都と交渉して泉町所有地を購入して新庁舎を建てた方がよいと考えている。

【副市長】現庁舎用地で建て替えると約 100～111 億円+ $\alpha$  が掛かり、泉町所有地では用地取得費込みで約 138 億円掛かるとの試算結果である。

移転候補地の泉町所有地は東京都の所有地であり、当然、東京都と連絡を取り、国分寺市で使用したい旨を 10 年以上にわたり交渉を続けている。これまで培ってきた信頼関係からすれば、ご理解いただけるだろうというふうに思っている。

【参加者】財政的な視点は新庁舎建設の根本にあると思う。

【副市長】持続可能な市役所、持続可能な国分寺市であるためには、一定の財政規律は必要だというふうに考えている。

非常に難しい日本の将来があり、国分寺市では人口増傾向ではあるが、日本は人口減少社会に入っており、更に超高齢社会に入っているということを考えていくと、ど

のくらいの規模が庁舎に必要なのかということも含めて、これからの財政をしっかりと考えていく。庁舎を造った結果、市政運営が困難になったりといったことがないように進めていきたいと思っている。

【参加者】新庁舎が泉町都有地に移転するとしても、現庁舎用地の跡地活用の仕方によって恋ヶ窪地域の住民の懸念もある程度払しょくされると考えている。

【副市長】公共施設が老朽化しており、庁舎の跡地になるかもしれない現庁舎用地については、売却ではなく公共施設再編の種地として施設を集約し、余裕があるのであれば、市民にとって何が必要な施設なのかを考えていきたいと思っている。

恋ヶ窪のまちが庁舎移転によって沈下してしまっただけでは、決して良い結果ではないので、双方上手くいくウィンウィンの関係になるように、まちづくりを進められる素地を残す、あるいは市民から知恵をもらい、それを実現していくというふうを考えている。

【参加者】新庁舎建設費用の縮減策についても考えてもらいたい。

【副市長】庁舎建て替えて、豊島区や渋谷区のように駅前など地価が高いところでは、建築費ゼロで区役所を建て替えた例があるが、国分寺市の地域性を考えると難しいだろうと思う。そのため、民間の力と知恵を借り様々な要素を組み入れ効率的に、そして財政的に寄与するよう、建て替える方法はないのかとしっかり考えていきたい。

2020年の東京オリンピック大会の建設需要が過ぎたら少し競争原理が働くのではないかとということも考えており、工事に入る時期についても重要な要素と考えている。

【参加者】泉町都有地の新庁舎建設にあたり、もとまち地域に文化センターをつくってもらいたい。

【副市長】もとまち地域に文化センターを設置してほしいというご意見については、具体的な予定はないが、もとまち地域センターは老朽化が進んでいるため、その辺は公共施設の再編の中でしっかり考えていく必要がある。また、多様な使い方ができる庁舎を造るべきだと思っている。どのような使い方をすれば市民の声の解決につながる施設になるのかということも、しっかり考えていきたい。

【参加者】国分寺警察署はできないのか。

【副市長】市議会でも要望が出ているが、なかなか造っていただけていない。要するに、国分寺市の治安を考えると、もっと先に造る順番が高い地域があるというのが東京都の答えであった。

東京都全体から地域をみて、犯罪発生率とか人口動態とか、様々な要因から新警察署の場所が定まってくるようである。残念ながら警察というのは市の意思で造れると

いう仕組みにはなっていない。市長会や副市長会を通して、また議会からの要望も持っていていっているが、先程のお答えとなっている。

【参加者】移転時に跡地となる現庁舎用地は、売却せずまちづくりの視点で活用してもらいたい。

【副市長】公共施設の再編を視野に、種地としての必要性は、市全体の状況を考えれば、他市に比べて公共施設が少ない、狭い、古いとの市民の声がある状況を考えれば、まず行政事情を解決し、市民が困っている状況を民間資金の活用などにより解決できる可能性があると思っている。例えば、周辺で考えると恋ヶ窪公民館・図書館、室内プール、それから福祉センター、これらを複合施設としたプランを提案するパートナーと組んでいくことは考えられると思っている。少ない税金の投入で必要とする施設の更新を進めたいという意向である。

庁舎建設は、分散しているものが集約されるという説明をした。いずみプラザの部署が新庁舎に移れば、いずみプラザのスペースが空き、その活用には市民要望が高い使い方などの可能性は出てくると思っている。ひかりプラザも同様である。

ひとつの施設が動くことによって様々な施設が展開しだすきっかけにはなっていると思うので、しっかりとした説明が必要だろうと思っている。

【参加者】泉町都有地に新庁舎が移転した場合、恋ヶ窪地域にも人が集まるような現庁舎用地の活用をしてもらいたい。

【副市長】仮に移転をしたとしても、泉町、恋ヶ窪地域の双方ウィンウィンで活性化が進むようなまちづくりを考えなくてはいけないと思っている。そのためには、民間活力をどう活用するかも非常に重要なものだと思う。

現庁舎用地の跡地活用については、恋ヶ窪に在住の市民の意見を慎重に聞きながら、どのような街がいいか考える必要がある。

併せて、西武鉄道も恋ヶ窪のまちに期待を持っているようなので、これはひとつの追い風になると考えている。

【参加者】恋ヶ窪地域から活力が失われるなどの理由から、泉町都有地への移転には反対である。

【副市長】庁舎移転に反対する意見はあって当然だと思う。建て替え時の、例えば代替庁舎の間はどうするのかを考えなくてはならないことが一番ネックな部分だと思っている。

現庁舎の近隣で、今のキャパシティが受け入れられる駐車場も含めた土地があるのか、仮にあったとしても3年間、4年間の仮設庁舎へ賃借料を払い、何も生まない出費となることが一番気になる部分であり課題である。

移転の場合は、議会での特別多数議決が必要であり議会の判断となる。様々な情報を提供し、色々な角度から考えて、最終的な判断がされるだろうと思っている。

【参加者】 今回の副市長と語ろうという懇談会は良かったと思う。

【副市長】 庁舎建設という事業において、市民との懇談会を繰り返し行っているが、担当レベルを超えた話は答えづらいため、縦割りということではなく、自分の言葉に責任を持ってないことは答えられないということもあり、副市長懇談会を開催した。今後もしっかり意見を聞きながら、丁寧に進めていくということについては約束をさせていたいただきたいと思っている。

## ○並木公民館

【参加者】 最初の役所はどこにあったのか。

【副市長】 明治 22 年に 2 つの村と 8 つの新田が合併して、国分寺村が出来た。明治 22 年時は、内藤新田に役場が作られた。現在の内藤橋の近い所にテニスコートがあり、そのテニスコート辺りに役場が造られた。当時の村外れで、府中市に近い場所であった。

【参加者】 新庁舎の基金は貯まっているのか。分散している庁舎を全て集約するための新庁舎ということか。

【副市長】 庁舎建設資金積立基金の残高は 3 月末時点で約 41 億円である。

最重要の目的は防災対策であり、分散している状況、市民にかけている不便な状況の解消のためには、新庁舎建設という結論となる。

【参加者】 新庁舎に集約後、効率化による職員数の削減の可能性はあるか。

【副市長】 分散庁舎の環境で重複している人員配置があれば考える必要がある。

また、市の業務を部分的にはアウトソーシングをかけることも考えないといけないと思っている。他自治体で実施している窓口業務の委託などを参考に考えている。

【参加者】 新庁舎に喫煙所は入るのか。

【副市長】 現在の法律、また東京都の条例からも、喫煙に対する捉え方が非常に厳しくなっているので、一義的にはおそらく無くなるだろうと思っている。

【参加者】庁舎が移転した場合の現庁舎用地の跡地活用について具体的な考えはあるか。

【副市長】跡地活用の議論も合わせて前面に出すと、移転がありきになってしまう。まず建設地候補地を決めてから跡地を考えていくべきと思っていたが、今回、また前回の懇談会でも現庁舎用地の跡地活用に関する声が多く出た。

恋ヶ窪公民館・図書館、室内プール、福祉センターは、老朽化やバリアフリーの問題もあり、複合施設として現庁舎用地への再編ができないかとの考え方を持っている。

【参加者】新庁舎が移転した場合も、サービスコーナー等があれば市役所への用事は済ませられるのではないか。

【副市長】これからは、市役所のあり方も変わってくると考えている。市民の一義的な来庁目的は、証明関係が多い。今後はほとんどの書類が近くのコンビニで入手可能になるだろう。

今後はマンツーマンの相談業務が圧倒的に多くなるのだろうと思っている。高齢化社会が進むことからそこをフォローすることが重要な役割になると思っている。

【参加者】新庁舎建設を機に、市役所への相談内容の拡大をしてもらいたい。

【副市長】行政では、解決が出来る、出来ない内容が残念ながらある。民民間に関して行政は対応出来ないこともあるが、市民の相談には、マンツーマンで話を聞き、求めていることを丁寧に確認、理解し適切に繋げる、あるいは事業の中で解決出来る等の対応が今後も含め重要と考える。

【参加者】新庁舎建設の財源について、基金もあるとのことだが、市民の負担はどうか。

【副市長】基本的には今の市民が、すべて背負って負担する必要はないと考えている。将来にわたる施設であるから、将来の世代にも負担をお願いするのが自然だろうと思っている。

庁舎建設を進めるにあたっては、長期間の返済を前提に財政の規律を考え、財政的につまづくことがないようやっていかなければならないと思っている。

【参加者】環境配慮としての太陽光パネルの処分が問題になっていると聞いたがどうか。

【副市長】太陽光パネルについては、技術改革が進んでおり、建物に負担をかけないものができている。情報を収集し、しっかり対応していく。

【参加者】新庁舎が泉町都有地に建設される場合は、多喜窪通りを改善してもらいたい。

【副市長】多喜窪通りというのは、東京都の管理で都道となり、都市計画道路の指定もされている。都市計画道路としての幅員は16mになって、現状はいずみプラザの付近までは広がっている。この都市計画道路は国分寺駅まで指定されているが未整備となっている。

そのため、東京都には早期の着手を要請している。しかし、都道の場合は、多くの道路を管轄しているため、その中で種々の情報による判断により優先順位付けされているのが実状である。

【参加者】新庁舎周辺のまちづくりはどのようにするのか。

【副市長】新庁舎を現在地で建て替えるのであれば、都市計画道路3・2・8号線が通ることから、恋ヶ窪駅と国分寺市役所の位置などを全体的に考え、どのようなまちにするかと考える。周辺の方がどのような街にしたいのかが大切だと思う。

市民懇談会をやってきた中で、賑わいの創出や不足施設の設置などの意見があった。地域の方は意向を持っているので、しっかり話をしながら進めなくてはいけないだろうと思っている。

泉町での課題は、西国分寺駅東口の開設で、府中街道の横断、武蔵野線ガード下の通行による西国分寺駅への行き来の必要がなくなり安全性が高くなる。それと同時に、いずみプラザ、多摩図書館へのアクセスも非常に良くなる。これから、まちづくりを進める上で、地域の方と一緒に考えていくことが重要で、西国分寺駅東口のほうの協議会も立ち上げていきたいと考えている。

JRは現在の改札口で十分足りているとのことから、東口を造る必要性がないという立場。造りたいならば国分寺市で造ることになる。消防署、多摩図書館、庁舎も建った場合、昼間人口が増えてくればJRも考えるかもしれない。

【参加者】基本構想に記載の新庁舎の想定規模はどうか。

【副市長】現状の庁舎では必要面積が足りないとの結論である。バリアフリー等の対応のために、相応の面積は必要となる。

【参加者】泉町や西元町に公民館を整備してもらえないのか。

【副市長】市民から新たな公共施設が要望され、その必要性が考えられれば絶対ないということではない。

また、市としては公共施設の再配置を考えている。その中で、もとまち地域センターについても立地等を考えていく必要がある。

【参加者】新庁舎建設のこれまでも色々取組を行ってきたと思うが、今後も市民に周知していってもらいたい。

【副市長】市民参加の取組みはかなり行ってきた。参加者増は課題であった。今回、副市長懇談会として庁舎と関連した幅広い内容で懇談できるよう企画した。

まずは、新庁舎建設を進めていることを知らないという市民を減らしていきたい。

平成 18 年に庁舎建設の検討を始めたが、国分寺駅の再開発を優先させたため 10 年間のブランクができたが、国分寺駅前の安全安心を考え鋭意進めた結果として、ここで一定の成果が上がった。

## ○恋ヶ窪公民館

【参加者】泉町所有地の地盤、湧水、埋蔵文化財の状況を教えてもらいたい。

【副市長】泉町所有地の地盤については、四小の建て替え、消防署の建て替え、多摩図書館等でも地盤を調査している。結果として戸倉と遜色ないという認識を持っている。湧水について、市は大切にしておりレキ層に影響が出るような建設では観測井戸を設け水量を調査している。そして、湧水の保全と同様、文化財の保存もある。埋蔵文化財の包蔵地域に入っているので、埋蔵文化財の調査が必要になる。過去に鉄道学園で試験車両の研修棟が建っていた所なので、文化財そのものは、その時点で壊されていると思っているが、丁寧な対応が必要となる。

泉町所有地は、国分寺崖線の上にあるので地盤として関東ローム層がある地域である。

【参加者】泉町所有地の地盤の安全性はどうか。

【副市長】東京都の地盤調査の資料でも、危険地域に入っておらず、高層の西国分寺ライフトワーでも地盤調査をしているので問題はないと考えている。

【参加者】西国分寺駅の東口についてはどう考えているのか。

【副市長】都立公園がある辺りは、一帯に都市計画を位置づけている。西国分寺駅東側の交通広場は市道の位置付けになっているので道路となる。

将来的に、西国分寺駅に東口ができると、利便性が一気に高まるだろうということで、10 年にわたって JR のほうに要望しているが、交渉は進んでいない。JR は、改札を作るのであれば市が単独で費用負担をした設置となるとの考え方。新設の改札口を作るには、よほどの状況変化がない限り JR が自らで設置することはないとのこと。しかし、知恵を使い開設に向けてしっかり進めたいと思っている。

【参加者】新庁舎の必要性はどのように考えているのか

【副市長】震災を経験した地域では、市民の個々の財産を守る資料や早急に使用すべき情報が庁舎内にあるが、庁舎に入れない状況となり、行方不明の人の検索等にも非常に時間かかっていた。そのようなリスクは、当然避けていくべきと思っている。勿論、市としては情報を分散し、市民の個人情報等はしっかり守っていくが、庁舎が倒壊、大きな損害があれば通信網が分断され情報の入手に相当の時間を要することになる。熊本地震では多くの自治体が苦勞していた。このため、国分寺市も含めて東京の市町村では庁舎の耐震化、もしくは庁舎の建て替えを進めている。

【参加者】現庁舎用地だけでなく土地を買わなくてはいけない泉町所有地も候補地としているのはなぜか。

【副市長】現状の職員数は670人程の正職員と330人程の嘱託職員で約1,000人の職員が働いている。その内一部の職員がいずみプラザ、ひかりプラザなどに分散しているので、すべてを集約したい考えがある。理由としては、ワンストップサービスが進められている時代に、分散状態は市民に多くの時間と労力を掛けている。また職員の会議等での移動でも相当に時間的労力的に無駄が発生している。

このことから、一つの建物に集約していくためには相応の規模の建物が必要であり、見合う土地が必要となる。

現用地でその規模は作れるが、仮設庁舎を別の敷地につくる必要がある。仮設庁舎を最低限で進めるためには2分割の工事となり、駐車場も大部分を工事用とすることになる。そのため、駐車場も別の敷地を借りて用意しないといけないことが想定されている。

そのため、更地の泉町所有地に移転して現状の庁舎環境を維持することは市民サービスの面で有効性が高く、また、現庁舎用地に恋ヶ窪公民館・図書館や福祉センター、また室内プールなどの近隣の施設を複合化するための種地になるのではないかとの一つの考え方もある。このことは現状の老朽化した公共施設の更新という課題解消が進めやすくなるとも思っている。

【参加者】新庁舎について市民も使えるように考えてもらいたい。

【副市長】国分寺市でも今後人口減少局面にいつ転じるかとの動向を考慮し、構想では新庁舎の延床面積を2万㎡と試算しているが、一定程度の減を想定して考える必要があるのではないかと考えている。そのうえで市民が活動出来るスペースなどがつくられるか、考えていく必要があると思っている。市民の需要に答えられる作り方をしておくべきだと思っている。

【参加者】豊島区のような新庁舎建設費用の縮減策を考えたことはあるか。

【副市長】豊島区そして渋谷区など、ターミナル駅の好立地の資産がある環境で民間資金の誘導を図りコスト削減をした例はあるが、国分寺市とは市場性が違うと思って

いる。しかし、出来ないことはないと思っている。例えば、恋ヶ窪と泉町の土地があり、泉町に新庁舎を造る場合、恋ヶ窪には民間施設を誘導し、そこで行政が得る資金を、庁舎に直接ではないが、公共施設の再編・更新につなげるなどの方法があると考えている。

P F I が効果的に使えるかは工夫だと思うので、恋ヶ窪と泉町の連携により何か良い手法が出てくる可能性はあるだろうと思っている。

**【参加者】** 新庁舎建設の多額の費用によって市民の税金が上がるようなことはないようにしてもらいたい。

**【副市長】** 庁舎、財政の両方を担当しているので、ブレーキとアクセル両方を使い分ける必要から、庁舎建設により財政が破綻したということになるわけには当然いかないので、財政規律という一定のルール作る必要もあると考えている。

**【参加者】** 現庁舎用地の売却は考えていないのか。

**【副市長】** 現庁舎用地の売却費を泉町所有地の購入費に充てられるという考え方。広域幹線道路の3・2・8号線が出来て、土地開発にとって魅力的な土地になるだろうということであった。

しかし、喫緊の課題である公共施設の再編のための種地として考えると、すべてを売却という訳にはいかないだろうし、民間企業へ貸すことなども考えられるため、しっかりとした考え方を整理していく必要がある。

**【参加者】** 公共施設の再配置はどのように考えているのか。

**【副市長】** 公共施設の建て替えや複合化を考えると、一定のスピード感が必要だと思っており、再配置も視野に入れ、順に更新や修繕していくことが必要だろうと思っている。庁舎で考えれば、例えば教育委員会の新庁舎への移転で、ひかりプラザは大きなスペースが空くので、新たな展開が考えられるため、このような事例を積み重ねていくことが必要だと思っている。

**【参加者】** 国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザは国立市に賃料を払っているのか。

**【副市長】** 市民プラザで国立市に賃料を払っているわけではなく、もともと国分寺市が使えるスペースがあり、それは中央線の連続立体交差事業の負担金の代替地である。共有化により双方の市民が広く使える施設になるということで、初めて両市で一緒に施設を設置した。

【参加者】泉町都有地に移転する場合の現庁舎用地の跡地活用についても示す必要があるのではないか。

【副市長】現庁舎用地の跡地活用について積極的な説明をすると移転前提との見方になる。移転の場合、現庁舎用地がどうなるのかは、当然一番の心配事であり関心が高いところだと思っている。

【参加者】新庁舎とまちづくりについて合わせて考えてもらいたい。

【副市長】国分寺市において、まちづくりで協議会も含め動いている地域は、3・4・11号線という新しい国分寺街道の周辺のまちづくり、史跡の周辺のまちづくり、西国分寺駅北口周辺のまちづくり、そして恋ヶ窪のまちづくりを始めたところ。

恋ヶ窪のまちづくりは始めたばかりのため、どのようなまちづくりにしていくかが主体である。恋ヶ窪というまちは3・2・8号線が出来ることによって環境も大きく変わり、アクセスも非常に良くなると思っているので、このようなことを踏まえ、恋ヶ窪周辺に在住の市民がどのようなまちにしたいかを検討するため、地域での懇談をはじめた。

【参加者】贅沢なものではなく、機能的な新庁舎を考えてもらいたい。

【副市長】この懇談会の中で話をしているように、市長の考えは華美なもの造らない、堅固で堅牢な、防災に対応し市民の生活を守る施設を造ると言っている。メンテナンスのしやすさも重要な要素。

【参加者】市民参加が少ないのではないか。

【副市長】平成29年からの懇談会等の参加者数の少なさは課題であった。これまで担当が行ってきたが、担当している範囲でしか答えられないので、副市長懇談会として行うことで多少でも市民の疑問に広く答えることにより、払拭出来るのではないかと思い企画をした。これまでの懇談会より参加人数は増えているが、倍になったわけではない。

このような状況は国分寺市だけの問題ではなく、市民意識、参加の高い自治体でも庁舎建設に興味を示す市民が少ない状況の実態がある。

【参加者】今後のスケジュールはどのように考えているか。

【副市長】基本計画を年度内に作成していく。そのために、12月までには建設地を決めなければならないと思っている。2020年以降2、3年後には着工の可能性があり、その後5年で完成できるようなスケジュールが考えられる。

【参加者】新庁舎が移転する場合、恋ヶ窪駅にサービスコーナーの設置を考えてもらいたい。

【副市長】サービスコーナーは今後の状況から検討しなければと考えている。

## ○光公民館

【参加者】熊本地震を見ても災害対応が最も重要で、その点、消防署や広い公園と隣接する泉町のロケーションは最適だと考える。

【参加者】泉町所有地は多摩の中心で市だけで使うべきではなく、跡地を活用する費用もかからない現庁舎用地での建替えが良いと考える。

【副市長】2か所それぞれの建設候補地を希望する意見について、参加している方々も、もっともな意見だと聞いていたと思う。しかし、まちづくりは庁舎を造るだけの問題ではなく、防災の視点、それから文化の視点も大切で歴史と文化の街というキャッチフレーズは無くせないと思っている。これまで築いてきた国分寺市の文化、今後考えられる直下型地震等の対応、更に重要課題である公共施設の老朽化への対応。このことは、光公民館、恋ヶ窪公民館など築30年以上の建物が多いことから、その対策も考えていかなければいけない。公共施設をその場所で建て替えるのは非常に至難の業で、建設期間の2年間程度は施設を使用できない。そのため、周辺で土地確保し建て替えるとの考えになる。このような意味も含め、現庁舎用地が種地になるということは見込まれる。

庁舎の建て替えだけではなく、それぞれの市民が利用している公共施設の更新をしていかななくてはならないと思う。今後一層の高齢化社会を迎え、生涯学習施設の必要性は感じており、その場を確保していかなければならないと思っている。

熊本地震では、庁舎が倒壊することにより次の活動が出来ないことが改めて分かった。市民に関わる情報がすべて使えなくなり、利用できなくなることは、行政にとって一番の脅威。個人の探索ひとつとっても非常に困難が予想される。戸倉、泉町どちらにおいても、強固で堅固な庁舎を造ることが求められていると思っている。ここまでの懇談会でもそのような意見が多く出されたので、そのことを踏まえ考えないといけないと思っている。

【参加者】国分寺市のまちづくりは国分寺駅、西国分寺駅、恋ヶ窪駅を中心に考えているのか。

【副市長】基本的に市のまちづくりは、国立駅を含めた中央線3駅と恋ヶ窪駅だと考えている。併せてまちの魅力を発信では、トライアングルゾーンといって史跡を中心とした地域を国分寺市の売りにして、文化と歴史の拠点として、来街者を呼び込もうとしている。

【参加者】 駅に近く便利な現庁舎用地での建替えに賛成だが、建設候補地についてどのように考えているのか。

【副市長】 庁舎を含めたまちづくりを担当としている副市長と同時に、危機管理官も任命され、更に財政も担当している。このため財政を考慮しない庁舎建設を進めることはないと考えている。併せて、防災の視点は絶対的な要素として考えていることから、総合的に考えていかなければならないと思っている。事業費についての説明で、建設用地を購入する場合は当然として高くなるが、将来にわたり市民の財産になる。長期的な視点では財政的に大きく寄与するものと思っている。用地を借り、仮設庁舎を建てて引越し、また戻るということは将来に何も残らない支出と捉えられる。

【参加者】 新庁舎が泉町都有地にできるのであれば、コーラス等で市民も利用できるような施設も整備してもらいたい。

【副市長】 庁舎を建て替えている他自治体では、例えば議事堂を使っていない時に市民に貸し出している事例がある。このように付加価値をつけていくことになるだろうと思っている。同様に、例えば会議室にしても市民に開放出来る造りにするなど、いかに効率的効果的に市民と一緒に使えるかという視点も必要だと思っている。

【参加者】 オーケストラもできるような文化ホールを整備してもらいたい。

【副市長】 建設費で相当の額が掛かり、それ以前に土地の購入が必要になる。高度経済成長の時に大きな施設を造ってきた自治体は、施設の維持に大変苦勞している現実があるので、慎重に考えないといけないと思っている。

【参加者】 光町周辺のまちづくりはどのようになるのか。

【副市長】 光町のまちづくりについては、立川から抜けてくる都市計画道路が市役所前通りと繋がる。3・4・6号線が府中街道から光町の交差点まできて、それがそのままの幅員で国立に下っていく。この道路が立川に抜ける東西方向の都市計画道路。そして、二小の横を南北に抜けて国立駅まで通じる都市計画道路がこの地域で未着工として残っている。この路線は第四次都市計画道路の整備計画に入っているなので、地域の方の知恵を借りながら、進めていくことになると思っている。

国分寺市は、全体的に都市基盤が弱いので道路をしっかりと造り安全安心な移動、特に歩道を整備し高齢者も子供達も安全に行き来が出来るように造っていかないといけないと思っている。

【参加者】泉町所有地に移転した場合の新庁舎へのアクセスについてはどのように考えているのか。

【副市長】アクセスの問題としては、ぶんバスのルートの再調整が必要になってくると思っている。ぶんバスに関し色々な要望もあり、庁舎を移転した場合の移動についても、庁舎へのアクセスを考えた他の要望も含めた方法を考える必要がある。

【参加者】泉町所有地に移転する場合、跡地となる現庁舎用地を周辺住民のためにもなるように活用すべきである。

【副市長】現庁舎用地で庁舎移転した場合には、室内プール、恋ヶ窪公民館・図書館、福祉センター3つの施設は、バリアフリーのことも考えればなるべく早く更新しないといけないと思っている。跡地として利用の話は、移転ありきになってしまうので難しいが、この懇談会の最初の頃から、跡地となった場合の考え方を聞きたいという参加者が圧倒的に多かった。公共施設の再編を進めるための有効な種地となることは間違いないということ。

【参加者】新庁舎の機能についてどう考えているか。

【副市長】新庁舎はどうあるべきかと考えていくと、コミュニティ施設として使えるような機能が必要だと考えている。そのためには効率的、効果的に建て替えられるのかという考えで進める必要がある。

【参加者】泉町所有地は国分寺駅の南側からだと多喜窪通りが谷になっていて行きづらいと感じる。

【副市長】多喜窪通りは都道となり都市計画道路が指定されている。市としては整備の要望はしているが、多くの整備しなければならない道路を管理している東京都としては色々な条件を考えて進めている。要望即整備とはなかなか進んでいかないのが現実である。

【参加者】区部にあるような商業施設や庁舎の複合施設はできないのか。

【副市長】豊島区や渋谷区みたいに建設費ゼロで庁舎を建て替えられるのではという指摘もあるが、それは難しいだろうと思っている。国分寺市でそこまで民間が資金を出してくれるようなことはないだろう。

【参加者】マイナンバーカードの普及など、これまでの市役所の窓口は変わってくると思うが、そうした点について新庁舎建設にあたってどのように考えているか。

【副市長】新庁舎建設にあたっては考えるべきことは、市役所への来庁回数は、5割超の方が1年に2～3回というアンケート結果はあるが、間隔は縮まってくると思っている。コンビニ交付の利用で便利さを感じるのは30代から50代くらいまでの世代だと思っている。超高齢化社会では、今後は窓口での対応は相応に増えてくると思っている。

このことから、今後の行政としての窓口対応は、総合的な話ができるような、プライバシーがしっかり守れるような充実した場所が必要であり、各課相互が連絡を取りあいサービスの向上をしていかなければならないと思っている。

そして付加価値として市民の活動の場、また文化的な活動が可能なスペースなどの機能もしっかり設けていくことが大事になってくると考えている。これまでの市役所のサービスをどのように改善向上させるかだと思っている。

【参加者】泉町都有地に移転すれば、土地は資産となり公共施設の種地とできるが、そうした行政の考えを資料に記載するべきではないか。

【副市長】懇談会の中で候補地への意見があり、それに対応して考えを整理することはあるが、行政が初めから候補地の意向を示すことはしていない。そこは理解いただきたい。

【参加者】市民参加について、多くの市民が参加するように工夫してもらいたい。

【副市長】資料に記載しているとおおり、懇談会などを開催しても参加者が少なく、できる広報はしてきたが、庁舎に限らず参加者を増やすことは難しい課題と感じている。なんとか解決する策はないものかと、引き続き考えていく。

【参加者】戸倉地域では戸建が増えて若い世代が増えており、恋ヶ窪駅の利便性の高さの現れだと思うので、衰退しないようなまちづくりを考えてもらいたい。

【副市長】恋ヶ窪駅周辺で懇談会をスタートさせ、周辺の住民の意見を聞き、新しい恋ヶ窪はどうあるべきか、ということが始まっている。西国分寺駅北口では、構想が出来上がった。恋ヶ窪周辺も同様に構想を目指していく。

日本の人口は、年30万人前後のペースで減っている。現状で国分寺市は2,000人位の市民が増えているが、どこかで止まり減少に転じるのは間違いないと考えている。超高齢社会、人口減少を見据えて、庁舎の規模は考えていかなければならない。また、まちづくりでは、4つの駅周辺のまちづくりをしっかりと考えていかなければならない。恋ヶ窪周辺でも丁寧に住民の意見を聞き進めていきたい。

## ○もとまち公民館

【参加者】新庁舎には分散庁舎を集約できるのか。

【副市長】最大の目的の一つに分散庁舎の集約がある。分散しているためのデメリットが大きい。いずみプラザか、ひかりプラザから職員が会議等のために恋ヶ窪に来る等、ロスがあるので、まずは分散庁舎を解消するのが目的でもある。

【参加者】新庁舎のデザインはどのように考えているのか。

【副市長】市長は、デザインは奇をてらったものではなく堅固な庁舎で進めることと指示を出している。バブル期など好景気時の公共施設はメンテナンスが結構大変で、維持費が予想以上にかかっているのが現実であることからの指示だと思っている。しかし、その中でも近隣の雰囲気を壊さないところは重要になってくると思っている。

【参加者】国分寺市は人口が増加しているのですが、せっかく建てたのに足りなくなることがないように新庁舎の規模を考えてもらいたい。

【副市長】国分寺市は毎年2,000人ほど増えているが、日本全体でいえば38万人から40万人位の人口が年間で減少している。東京都の予想は2025年で下がるといっているのですが、あと5～6年で国分寺市も下がってくると考えられる。そのことも踏まえ、どの程度の規模にするのかを精査していく必要があると思っている。

しかし、建物を造るにあたり、例えば車椅子が執務室内を通れるなど考慮しなければならない基準がある。また、カウンターの高さも公共的な建物は特に配慮が必要になる。このようなことを踏まえたうえで精査をして行く必要がある。

【参加者】この懇談会での意見も建設候補地の決定にあたって吸い上げてもらえるのか。

【副市長】この懇談会での意見も踏まえ議会に説明する責務が私達にはある。移転の場合は、最終的に特別議決で3分の2以上の賛成により決定するので、通常の過半数ではない。

【参加者】議会では新庁舎についてどのような反応なのか。

【副市長】熊本地震で震度7が連続したことから、それに耐えられる庁舎と考えると、今のままではどうしようもないだろうとの認識は、議員の方たちと私達是一緒だと思っている。その上で、問題は建設地となる。これまでの市民意見は資料に書いてある通り、戸倉を希望する意見、泉町を希望する意見がある。

【参加者】泉町都有地の購入について都と交渉はしていないのか。また、泉町都有地への移転する場合の現庁舎用地の活用はどのように考えているか。

【副市長】平成18年に庁舎建設を進めるとした時から、泉町の土地について東京都に要請している。しかし、国分寺駅北口の再開発を最優先とした財政的な事情により、ペンディングになった。一昨年、国分寺駅北口再開発の一定の目途がつき庁舎事業を再開し現在に至っている。

泉町での庁舎建設を考えた場合、現状閉塞感がある公共施設の建て替えの種地になると思っている。もとまち公民館も同様であるが、特に恋ヶ窪公民館・図書館、また福祉センターが古く、建替えのために現庁舎用地を種地とし複合化していく方法があると思っている。全体的には、ひとつの再編が動き出せば、様々な可能性が考えられる。

高齢社会に応じたバリアフリーの公共施設に切り替えていかなければならないので、併せて視野に入れないといけないと考えている。

【参加者】現庁舎用地での建替えについてどう考えているか。

【副市長】仮設庁舎のため3年間程度土地を借りて、リースで仮設庁舎を建てるのにかかる費用が概算で1期建替えの場合に13億円強となり、この額は資産にならない金額ということが引っかかっている。

【参加者】新庁舎について住民投票という話も聞いたが、どうなのか。

【副市長】住民投票を実施し仮に結果が出たとしても、住民投票の結果は尊重するものであり、移転の場合は特別議決で3分の2以上の賛成とならなければならない。住民投票では、投票率が50%を超えないと開票しない規定を設けている自治体がある。小平市の例で住民投票を行ったが、投票率が50%を超えなかったため開票は行わなかった。住民投票というからには、少なくとも50%を超えないと住民の意思にならないだろうということ。最高裁まで争われたが、開けないという判断は間違いでないということになった。

【参加者】新庁舎に文化ホールを併設してほしいとの要望を出したことがあるが、ホールについてはどう考えているか。

【副市長】ホールに関しては、他の自治体で文化ホール等を造り、立地条件が外れると稼働率が低くなるケースがある。大きなランニングコストが掛かってしまうので、立地をしっかりと考えないといけない施設だと思っている。やはり、もしホールをつくるのであれば、中央線の駅から徒歩圏内に造ることが必要ではないかと思っている。

【参加者】どちらに建設するにしろ、まちづくりを含めてどうするのか示してもらいたい。

【副市長】西国分寺駅北口では協議会を立ち上げ市民や JR 等で考えを積み上げ一定の成果に結びついた。

恋ヶ窪地域については、懇談会を始め、その中で市役所の有無が決まらなるとまちづくりがはっきりしないとの意見があったが、恋ヶ窪のまちづくりを考えていく大きな要素で一番は3・2・8号線の開通があと2年くらいで見込めること。そうすると市役所通り、3・2・8号線、そして西武線とのゾーンをどのようにしていくのか、このことを地域の方と話し合いを重ね、基本的な考えをまとめていくことになると考えている。

泉町で考えると西国分寺駅東口の開設は、JRと協議しているが、これまでは請願改札ということで建設費、そこに係る人件費が自治体負担と言われている。JRの計画と連携できるように改札だけではなく利便施設なども含め話をしていければと考えている。

【参加者】泉町所有地への移転に賛成だが、そうなった場合、議員の3分の2以上の理解を得ることは可能なのか。また、これまでに庁舎の場所は変わっているのか。

【副市長】移転の場合は、3分の2以上の特別議決が必要で重い決定である。議員定数が22になったので、3分の2以上は15名となる。新庁舎の必要性はご理解いただいていると思っている。

国分寺の歴史を振り返ると、昔は内藤新田に村役場が建設されたのが最初の役場。内藤の庁舎が焼失したため現在の農協がある場所に移転した。次は庁舎が手狭になり用地を探して現在の場所に移った。これまでは跡地を売却してきている。

【参加者】国分寺警察署はできないのか。

【副市長】かれこれ20年以上にわたり東京都に陳情しているが、国分寺市は治安がいいことから他の優先するところがあると言われている。警察署がないことで市民に不便をかけていると思っている。

【参加者】まちづくりのイメージを示していく必要があるのではないか。

【副市長】まちづくりのイメージは、今後作る予定の協議会である程度の方向性が出たら作成できる。

## ○市役所書庫棟会議室

【参加者】建設候補地がどちらかというよりも、公共施設の再配置も含め、市全体のまちづくりという視点での議論が必要である。

【副市長】これまでの懇談会では、庁舎建設担当との懇談となるため、踏み越えた答えはできないため、参加者にはフラストレーションになっていたこともあったと思っている。そのため今回の懇談となった。懇談会の中での質問、また議会でも建設場所を明確にする時期について問われるが、少し先になるだろうと思っている。懇談会の意見を聞いた中で積み上げ、最終的に議会に報告して行政として明確にしていくことは、おそらく9月か10月と思っている。これまでも含め、懇談会等により市民との意見交換を重ねていって、どちらがいいかというより、客観的にどのような意見が多いのかということ、最終的には市長に報告していく。担当が答えづらかった、他の公共施設との関係や、移転の場合の現庁舎用地の利用で、跡地利用の議論になってしまうと、泉町への移転ありきではないかとの議論になってしまいかねないので、難しさは担当レベルではあったと思っている。

しかし、市としては、二つの候補地を様々な視点から考えなくてはいけないと思っている。公共施設の種地としての展開が大きな要素と思っている。分散状況の解消によりひかりプラザの新たな利用が想定できることなどが考えられる。このことは、公共施設の再配置、それに伴う複合化、そして長寿命化等への対応が計画的にできるようになるとしている。総合的な検討に基づき事業を進めていく必要があると考えている。

【参加者】資料は新庁舎建設の事業費だけ記載されているが、金額の多寡だけで判断されてしまう恐れがあり、それに伴って実現する公共施設の再配置も含めた費用や効果を示すべきではないか。

【副市長】現時点で示せる想定金額は、現段階で可能な限りの金額を提示した資料となる。このような中で、庁舎建設に限定した資料で、公共施設の建替え等まで含めた金額の算出は、現時点では困難である。新庁舎の建設地が決定すれば、長期の財政フレームの中に一定程度組み込み、示すことが可能になるとしている。

【参加者】新庁舎を泉町所有地に建設する場合、埋蔵文化財の調査は必要になるのか。

【副市長】泉町所有地の埋蔵文化財の調査にはある程度時間がかかると思っている。小金井特別支援学校の建物部分の調査は実施している。以前は鉄道学園の施設があった土地である。



【参加者】現庁舎用地と泉町都有地の両方に庁舎機能を分散させ、シャトルバスでつなぐことは考えられないのか。

【副市長】なぜ分散庁舎を解消しなければならないかというのは、非効率なところが多分にあるという理由からである。市民にも多くの迷惑をかけている。例えば、戸倉庁舎だけでは手続きが済まずに、他の離れた施設に移動してもらわざるを得ないことなどがある。

【参加者】今の技術なら、電子的に連携することでワンストップサービスの窓口が実現できるのではないか。

【副市長】現状の大きな課題の一つは、分散庁舎の現状とワンストップサービスでないことだと思っている。ワンストップサービスにはどうすればいいのかは各課の連携が必要で、現状の課単位、部単位の縦型の構造になっているから、組み替えなくてはいけないと考えている。その他、受付業務だけではなく、福祉の関係、学校の関係は、非常に広範囲な相談業務が多くあり、内容は専門的になる。

このようなことから新庁舎では、効率的な窓口業務にしたいと思っている。また、相談においても同様な考えで進めていく。

【参加者】恋ヶ窪駅周辺は民間が入って発展することは難しいと思うので、行政が入ってまちづくりをしていく必要があり、そのため新庁舎が移転した場合の跡地に何を持ってくるのかが重要で、それを示してもらいたい。

【副市長】新庁舎基本構想を作る段階から、市民懇談会を重ねてきたが、移転した場合でも現庁舎用地を売却する考えはない。公共施設再編のための公共用地として非常に重要と考えている。まちの魅力づくりの発展の場にするためにも重要な土地だと思っている。国分寺駅北口に一定の目途がつき、西国分寺駅南口は完了している。次は、西国分寺駅北口と恋ヶ窪駅周辺だと思っている。西国分寺駅北口のまちづくりは、地域の意見を集約し構想が出来たので具体のまちづくりを検討していくことになる。恋ヶ窪駅周辺については、懇談会を先月初めて行いスタートを切った。周辺の市民がどのような街にしたいかをまず聞くと同時に、ここに何が必要なのかも含め色々な意見から考え方をまとめていくことが大事だと思っている。

【参加者】第一庁舎もリースの予定だったのが市で取得するなど、そうした変更がないようにしっかり考えてもらいたい。

【副市長】第一庁舎については、5年リースの建物を最終的に買い取り現在も使っている状況で、当初の計画では想定しなかったことが起こってしまった。このことはしっかり反省し、約束の不履行をしないようにしっかり守っていくということ絶対の条件だと思っている。

【参加者】新府中街道が府中市側から来る方向は1車線だけなのはなぜか。

【副市長】新府中街道は未完成の道路のため現状の通行形態である。完成すれば当然4車線になる。現状で4車線にすると生活道路に入る車がより多くなるため、現在は片側1車線になっている。

【参加者】5館の公民館のように、本多や恋ヶ窪など地域ごとにワンストップサービス窓口のある支所を整備してもらいたい。

【副市長】今後より一層高齢化社会になると移動が大変になることが考えられることから、自宅から比較的近いところで公共サービスが提供できるのが良策だと思っている。サービスコーナーについては、機能向上をさせて窓口対応が出来るようになることがいいと思っている。サービスコーナーは国立駅と国分寺駅にあり、拠点駅の近くにはつくる必要が将来あるだろうと考えている。今後、考え方を整理していく必要があると思っている。

【参加者】新庁舎だけでなく、ホール・博物館の整備は考えられないのか。

【副市長】新たなホールなどの事業を進めるには一定の計画を作り、整理をしていくことになると思っている。博物館についても同様である。将来を考え、基金の準備は一定していて、建設費を少しずつだが積み上げているのが現状である。

【参加者】新庁舎の防災機能として耐震性はどのように考えているのか。

【副市長】庁舎の防災機能は非常に重要であり、国、東京都でも防災庁舎という考え方、位置付けが新たな言葉として出てきた。これは熊本地震で本震、余震が震度7と日本で経験のない地震が起こったということも影響していると考えている。防災庁舎であれば、このような連鎖に耐え得る庁舎を造ることが求められ、強固な耐えられる建物を造ることが必要と考えている。

【参加者】泉町都有地に新庁舎を建設する場合、災害時に中央線の橋が落下する危険性はないのか。

【副市長】国分寺市の危機管理官でもあり、防災についてこれまでも取り組んできた。国分寺市には大きな川はないが、小さな川と中央線が掘割のため、橋がいくつかある。その橋は耐震等の試験を繰り返して、JRにかかっている橋は、JRで耐震補強をしている。このようなことから、その部分については大丈夫だと考えている。

【参加者】新庁舎の防災機能として周辺環境はどのように考えているのか。

【副市長】防災に関しては、庁舎の近くに大きな広い空間があることは、過去の地震から見ても、それは非常に有効に機能していると感じている。併せてどのような機能が求められるのかも考えている。強固で堅牢な庁舎を造ることが重要だと考えている。付加価値としては、広場があったり、ヘリコプターが降りられる広さがあったりといったことが整理されてくるのだろうが、防災という視点では、庁舎そのものに限定したところで考えている。

また、庁舎の機能で、庁舎が使用不能にならないことが最重要で、市民のデータが速やかに取り出せること、市民の安否確認のデータが取り出せることが重要である。

【参加者】高齢者等の利用しやすいスペースを考慮した新庁舎の規模を考えてもらいたい。

【副市長】華美で必要以上の面積はいらないと思っていることから、個々に執務環境を確認し最終的な面積を確保したいと思っているが、バリアフリーを含め車椅子の通行が出来る庁舎を考えると、一定規模は必要となると思っている。

【参加者】まちづくりの視点で新庁舎を考えてもらいたい。

【副市長】庁舎とその地域のまちづくりはセットだと思っている。そのことも含め、この地域ではどのようなまちづくりが必要か、という意見もいただきたいと思っている。これまでやってきた中でも、数多くの意見をいただいているので、その意見を参考にしっかりと整理していきたいと思っている。

【参加者】新庁舎では地下を活用しないのか。

【副市長】新庁舎について地下が必要かなど具体的なことは決まっていない。強固で堅固な防災庁舎という先駆的な事例を参考にしながら、具体的な設計をまとめ、説明をし、意見をいただく機会を作っていきたいと思っている。

【参加者】新府中街道は緊急輸送道路について指定されているのか。

【副市長】現時点で新府中街道は、多喜窪通りから北は緊急輸送道路に指定されていない。府中街道は指定されている。新府中街道が五日市街道まで開通したら、指定されるかはまだはっきりしていないので、東京都から情報があったら周知していく。

【参加者】新庁舎の建設地が決まれば、まちづくりの考えが進むことを期待している。

【副市長】庁舎が出来ればいいというものではないと思っている。全体的に地域の活性化とまちづくりはどうあるべきなのかと、多角的に考えていかないといけないと思

っているので、住民の意見を聞きながら、課題の解決のためにはどうあるべきかなどを考えていかなければいけないと思っている。

**【参加者】** 今の国分寺市の財政状況はどうなっているのか。

**【副市長】** 自治体の財政になると一般の方には分かりづらいと思っている。その中で自治体の財政を考えるうえで、一つは財政力指数、二つ目が経常収支比率、三つ目が実質公債費比率で、例えば必要な経費を使った後に何パーセント残るのかといったものが使われる。

国分寺市は、財政力指数が1.021である。経常収支比率は94%なので、6%程度の余力があるということである。公債費比率はマイナスなので、他の市に比べて借金はほとんどないというふうには見ている、そのような状況である。一般にも発表されているので、ご覧いただければと思う。

**【参加者】** 新庁舎を建設すると、今より財政状況は悪化するのか。

**【副市長】** 新庁舎を建設すると、公債費比率という借金が上がる可能性はある。経常収支比率も同様に返済額がどのくらい負担になるかということになると思うことから、注意深く管理しなければと思っている。